

TEMPUS テンプス

2018年(平成30年) **64**号

岸和田藩と関係のあった 貝塚市域の寺院



水間寺(水間)



遍照寺(馬場)



宝蔵寺(浦田)

も く じ

- 岸和田藩と関係のあった貝塚市域の寺院
- 民俗芸能の課題に関する意見交換会・交流会
- 第59回近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会(大阪大会)
- 講演会「岩橋善兵衛ゆかりの浪花“知”の巨人 博物学から
文人画までー木村蒹葭堂とその生涯ー」を開催
- ／『貝塚市の70年』を読む会 秋の記念講演会
- 岩橋善兵衛と望遠鏡⑤ー善兵衛をめぐる人びと その2ー
- ／貝塚市立善兵衛ランド開館25周年イベントを開催
- 古文書講座ー市内にのこる身近な古文書ー
- 文化財講座・セミナー

岸和田藩と関係のあった貝塚市域の寺院

岸和田藩の歴史は、天正13（1585）年、羽柴（豊臣）秀吉の紀州攻め後に岸和田城主となった小出秀政（こいでひでまさ）より始まりました。その後、元和5（1619）年より松平氏が藩主となり、寛永17（1640）年より明治4（1871）年まで岡部氏が、13代、約230年にわたって藩を支配しました。

小出氏の時代には秀吉の直轄領であった地域もありましたが、江戸時代の貝塚市域は、願泉寺ト半（ぼくはん）家が支配する貝塚ト半寺内（じない）と、寛文元（1661）年以降に岡部氏の分家領となった沢村を除いて、全ての地域が岸和田藩領でした。そのため、当時の貝塚市域に住んでいた人々は、岸和田藩と様々な関係を結んでいました。

そのような中から、今回のテンプスでは、岸和田藩と関係のあった貝塚市域の寺院についての事例を紹介します。

岸和田藩主に保護された寺院

中世の武士たちは、自らが支配する地域の有力な寺社を保護するため、境内地の保護や土地の寄進などを行ってきました。こうした行為は江戸時代に入っても続けられ、貝塚市域では、水間寺や馬場の遍照寺（へんじょうじ）に、田畑の寄進や山林の年貢などの免除を示す歴代藩主の黒印状が残っています。

水間寺に残る黒印状 寛永15（1638）年に藩主松平康重（やすしげ）が水間村の田畑を仏前に捧げる灯籠（とうろう）の油代として寄進したことを示す黒印状（右図版）が残っており、同じ内容を示した岡部氏歴代の黒印状が残されています。



松平康重黒印状 水間寺所蔵

遍照寺に残る黒印状 元和6（1620）年に康重が杉本坊（遍照寺の前身。黒印状の宛先に「泉州高野山杉本坊」とあることから和泉国における高野山の子院の一院であったと考えられます）の所有する「弘法大師御影堂」の山林にかかる年貢などを免除する旨の黒印状が残っています。この黒印状は、山林を寺領として保護する意味を持つもので、「先規（せんき、＝先例）に任せ」という表現があることから小出氏以前より保護を受けてきたものだと思います。水間寺と同じく、岡部氏歴代の黒印状が残されています。

岡部長著（ながあきら）とその菩提寺

岡部氏の菩提寺は、初代宣勝（のぶかつ）の時代に整備された3カ寺がありました。宣勝の母親を祀った岸和田城下町（現在の岸和田市南町）の梅溪寺（ばいけいじ）、3代家光以降の将軍徳川家歴代を祀った半田村（現在の貝塚市半田）の海岸寺（かいがんじ）、岡部氏歴代の菩提寺となった土生村（はぶむら、現在の岸和田市門前町）の泉光寺（せんこうじ）です。その後、5代長著（3頁上図版）の時代に小瀬村（現在の貝塚市小瀬）の釈尊寺（しゃくそんじ）と岸和田村（現在の岸和田市野田町）の十輪寺（じゅうりんじ）の2カ寺が菩提寺として整備されました。この2カ寺は貝塚市域と関係の深い寺院でした。

釈尊寺 長著の口添えで寺号を許可された寺院で、長著の父親である4代長敬（ながたか）の位牌が祀られたことで岡部氏の菩提寺となりました。現在は廃寺となっており、その詳しい歴史は分かりませんが、小瀬の無量寺や久保の最勝寺に寺宝が移されて残っています。

十輪寺と宝蔵寺 十輪寺は、日根郡浦田村（現在の貝塚市浦田）にあった寺院で、元文3（1738）年、長著により岸和田村に移されました。長著が自身の菩提寺とするために移転させた寺院で、長著とその側室、家臣などの墓碑や位牌が祀られていました。

なお、浦田村の十輪寺の跡地には、延享2（1745）年、宝蔵寺が建立されました。「宝蔵寺縁起」には、宝蔵寺はもと沢村にあった薬師如来をまつる寺院で、十輪寺の移転に際して、長著の命によりその跡地に小堂を建立し地蔵菩薩（右下図版）を安置したと記されています。

江戸時代は一般に新たな寺院の建立が禁じられていましたが、歴代藩主の中でも、とりわけ仏教への信仰心に厚い人物であった長著は、自らの菩提寺を持つことを切望し、このような措置を取ったものと思われます。

今回紹介した事例から、岸和田藩領内の有力な寺院のいくつかが貝塚市域に存在したことが分かります。現在、釈尊寺は寺院自体が残っていませんが、独特の「寺僧」（じそう）制度をもとに地域ぐるみで運営されている水間寺、檀家を持たない遍照寺、明治初期に廃寺（はいじ）となった後、町会で管理されている宝蔵寺と、いずれの寺院も貝塚市内で特色のある寺院となっています。



岡部長著像 泉光寺所蔵
写真提供 岸和田市教育委員会



宝蔵寺の本尊
木造 地蔵菩薩立像

平成29年度貝塚市郷土資料展示室特別展 「岸和田藩と貝塚」のお知らせ

平成29年6月28日付で岸和田藩の七人庄屋屋敷「要家住宅」が国の登録有形文化財となったことを記念して、岸和田藩と貝塚市内の寺社との関係を中心に、江戸時代の貝塚市域と岸和田藩についての資料を展示します。

会 期： 平成30年3月10日（土）～4月22日（日）

会 場： 貝塚市郷土資料展示室（貝塚市民図書館2階）

開室時間： 午前9時30分～午後5時

休 室 日： 毎火曜日、3月21日（水・祝日）、3月31日（土・図書館休館日）

観 覧 料： 無料

民俗芸能の課題に関する意見交換会・交流会

第59回近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会（大阪大会）

平成29年11月11日（土）、本市教育委員会では、民俗芸能の活性化を図るため、保存団体が抱える課題をお互いに共有し、団体間の交流を図るための意見交換会・交流会を開催しました。

本市からは貝塚市東盆おどり保存会と貝塚三夜音頭継承連絡会の2団体が参加したほか、泉州地域の盆踊りを中心に保存活動を行っている6団体、そして民俗芸能大会参加の3団体及び行政関係者が60名以上参加しました。

まず、文化庁文化財調査官を講師に迎え、「民俗芸能の現状と課題について」と題して、民俗文化財の保護などの国の現状、保存会の全国的なつながりをはじめとする課題、そして長野県の大鹿歌舞伎などの近畿・東海・北陸ブロック以外の保存活動の紹介などをいただきました。

次に、本市の2団体をはじめ、泉州地域の団体から、それぞれの踊りの特色が説明されるとともに、高齢化に伴う後継者育成、練習場所の確保などの難しさがあげられる一方、学校への働きかけを行うなどの保存継承活動が紹介されました。

その後、各班で意見交換を行い、まとめとして議論した内容を発表し合いました。その中で、後継者不足の克服、行政のバックアップ、地元と行政の連携を求める声があがりました。

それを受けて、最後に文化庁文化財調査官から後継者不足に対する行政の協力の重要性を指摘されました。こうした課題を踏まえ、今後も、保存継承に向けた取り組みを進めていきます。

意見交換会・交流会の翌日、平成29年11月12日（日）は、貝塚市民文化会館（コスモシアター）大ホールで第59回近畿・東海・北陸ブロック民俗芸能大会（大阪大会）が開催されました。

当日は、650名を超える来場があり、本市の大阪府指定無形民俗文化財「貝塚の東盆踊り」をはじめ、6府県7団体による近畿・東海・北陸を代表する民俗芸能が披露されました。参加団体には、これまでの保存継承活動に敬意を表し、感謝状が贈呈されました。



文化庁調査官の講演



意見交換会



貝塚市東盆おどり保存会の発表



貝塚三夜音頭継承連絡会の発表



舞台上で踊られる貝塚の東盆踊り



感謝状贈呈式（貝塚の東盆踊り）

講演会「岩橋善兵衛ゆかりの浪花“知”の巨人

けんかどう

博物学から文人画まで—木村兼葎堂とその生涯—を開催

平成29年10月14日（土）、貝塚市民図書館視聴覚室において、大阪大学教授の橋爪節也さんを講師に迎え、貝塚市が誇る江戸時代の望遠鏡製作者、岩橋善兵衛と交流のあった大坂の町人“木村兼葎堂”についての講演会を開催しました。



講演を熱心に聴く参加者のみなさん

講演会では、最初に、当時を代表する多くの知識人が登場する「兼葎堂日記」をもとに、寛政5（1793）年9月から10月にかけて岩橋善兵衛が兼葎堂宅へ訪問し、天体観測を行った

記事、また兼葎堂自身が貝塚に立ち寄った記事などを紹介していただきました。

その後、兼葎堂が、博物学、文人画、出版、煎茶など、さまざまな分野で功績を残したことを、昆虫や貝類の標本などのコレクション、著作、絵画などを投影しながら、詳しくご説明いただきました。

岩橋善兵衛と交流のあった知識人“木村兼葎堂”について詳しいお話を聞くことで、善兵衛をめぐる人々との交流やその業績について、より理解を深める機会になったことと思います。

『貝塚市の70年』を読む会 秋の記念講演会

貝塚市制70年を記念して平成25年に刊行した『貝塚市の70年』を活用し、平成28年10月よりスタートした「『貝塚市の70年』を読む会」も1年を経過し、歴史の舞台は第2次世界大戦後へと進んでいます。



講演に耳を傾ける受講者のみなさん

平成29年10月28日（土）に開催した秋の記念講演会では、講師に関西学院大学教授の今井小の実さんを迎え、「貝塚市における繊維工業の軌跡と女性労働者—『貝塚市の70年』編纂の調査を通じ

て—」と題し、泉州地域の近代産業の中心であった繊維工業と、そこに働く女性労働者の姿をひも解く講演をしていただきました。会場の貝塚市歴史展示館（ふるさと 知っとこ！館）は、かつての大日本紡績貝塚工場の事務所であり、まさに講演テーマの現場そのものです。受講者のみなさんの中には、当時の女性の就職事情を知る方がおられ、それぞれの方が体験された、戦後から高度成長期の話に対し、昔を懐かしむ感想が寄せられました。

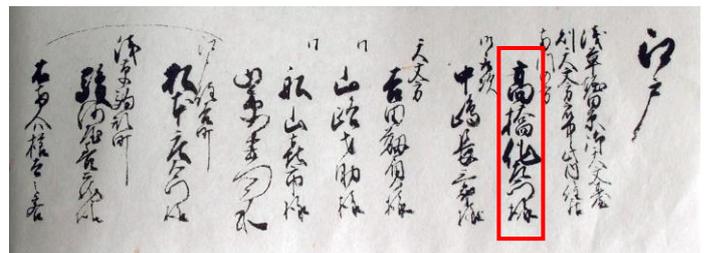
今後も、春の記念講演会をはじめ、社会教育課職員による個別テーマで毎月開催を予定しています。最終頁に日程とテーマを掲載していますので、ふるってご参加ください。

岩橋善兵衛と望遠鏡⑤ - 善兵衛をめぐる人びと その2 -

善兵衛の望遠鏡は、初めて西洋天文学が取り入れられた暦『寛政暦』（かんせいれき）の作成に大きな役割を果たしたことが知られています。この改暦事業の中心となった一人が、大坂の天文学者麻田剛立（あさだごうりゅう）門下の高橋至時（たかはしよとき）でした。

至時は大坂京橋口組定番同心（じょうばんどうしん）をつとめた下級武士でしたが、寛政7（1795）年、幕府から暦学御用（れきがくごよう）として江戸への出府を命じられ、幕府天文方（てんもんかた）となりました。寛政8（1796）年8月、改暦の命が正式に下されると、至時は江戸浅草の司天台（してんだい、幕府の天文台）から京都へ上り、当時の改暦の実質的な責任者であった公家土御門（つちみかど）家との調整や現地での天体観測など、朝廷のあった京都において改暦作業にあたりました。

このように、江戸と京都で改暦作業にあたった至時に、善兵衛は高性能な望遠鏡を提供しました。それを証明する史料が、善兵衛が遺した「仕入方直段控帳」（しいれかたじきだんひかえちょう）です。この帳面は、改暦事業の最中に作成されたため、江戸と京都の2カ所に至時の通称名である「高橋作左衛門」の名前が記されています。あわせて、至時以外の役人たちの名前も記されていることから、至時から天文方の役人たちは、善兵衛にとって大きな得意先であり、善兵衛の望遠鏡は、当時国家事業であった改暦事業を担った人々に供給されたことが分かります。



「仕入方直段控帳」に見られる天文方の役人たち（ 内が「高橋作左衛門（至時）」記載部分）

貝塚市立善兵衛ランド開館25周年イベントを開催

平成29年11月18日（土）、貝塚市立山手地区公民館において、善兵衛ランド開館25周年シンポジウム「江戸時代の望遠鏡製作者、岩橋善兵衛の実像にせまる」を開催しました。

大阪市立科学館学芸課長の嘉数次人（かずつぐと）さん、富山市天文台専門官の渡辺誠さん、奈良県立大学名誉教授の上田穰（みのる）さん、堺女子短期大学名誉教授の浅井允晶（のぶあき）さんの4名によるミニ講演のあと、ご参加の皆さんからの質問に答える形でシンポジウムを行いました。

ミニ講演、シンポジウムともそれぞれの先生から、岩橋善兵衛の望遠鏡のすばらしさ、その時代における善兵衛の業績、そして善兵衛の人柄を感じさせるお話がありました。

また、善兵衛ランド展示室では、11月2日（木）から30日（木）まで特別展示「岩橋善兵衛展」を開催し、京都国立博物館所蔵の竹製望遠鏡や渡辺誠さん所蔵の一閑張望遠鏡など、善兵衛製作の望遠鏡の数々を展示しました。



シンポジウムでの意見交換

古文書講座

—市内にのこる身近な古文書—

◆殿様御成（とのさまおなり）

平成29年10月11日から11月15日にかけて各水曜日の5回にわたり、「殿様御成」と題して古文書講座を開催しました。

江戸時代、岸和田藩の殿様は国元に帰ると、村々を巡見したり、狩りや魚釣りなどに興じたりと、領内をまわりました。その時、村役人の家などに立ち寄り、昼食や休憩を取ることを「殿様御成」と呼び、それぞれの家の名誉と受け止めていました。当時の古文書から、その様子を読み解きました。

村々の巡見の際には、十数名の家来を従え、荷物持ちなども含めるとその倍を超える数の行列となりました。家来の中には食事を用意する料理人、食材などを調達する台所奉行、さらに殿様のための医師が同行しました。

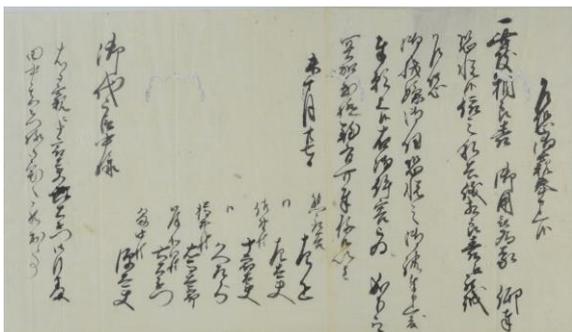
また、安永6（1777）年の記録には、数え年15歳で殿様になったばかりの岡部長備（おかべながとも）が畠中村庄屋要源太夫家を訪れ、邸内の池を釣り堀として100匹を超える鮒（ふな）を釣り上げたり、家来を小牛の背中に乗せて楽しんだり、と若い殿様がはしゃぐ様子を知ることができました。

それに対し、親孝行の息子が年老いた母のために買ってきた「養老酒」（＝江戸時代の薬用酒で美濃国「養老の滝」の土産物）を母にではなく殿様に献上した際、殿様はすぐに封を切り、老母をはじめ家族に下げ渡した逸話もテキストから明らかになりました。

この他、殿様ではなく、「御女中」（＝藩の奥向きの用をはたした女性）が地蔵堂村の正福寺（しょうふくじ）にあった勝軍地蔵（しょうぐんじぞう）をお参りし、その帰りに源太夫家に立ち寄り、子どもたちに人形などを与えた記録も残っています。

受講者の方からは「殿様の日常生活がかいまみられた」「殿様を迎える人びとの準備のたいへんさが目に浮かぶ」との声が寄せられています。

◆相良城請取（さがらじょううけとり）と七人庄屋 一開催中一



相良城で七人庄屋が岸和田藩主にあいさつしたい旨願い出た伺い書（要家文書）

天明7（1787）年に失脚した田沼意次（たぬまおきつぐ）の居城、遠江国（とおとうみのくに、現在の静岡県）相良城を召し上げるために幕府は、岸和田藩主岡部長備に城を請け取るよう命じました。この時殿様の晴れ姿を一目見ようと、岸和田藩の七人庄屋たちは、泉州からはるばる相良へ赴きました。講座では、相良で藩主を出迎えたことや道中の様子を古文書から読み進めています。

文化財講座・セミナー

郷土資料展示室

◆ 2月

郷土 3日(土) 13:30～ 第114回かいつか歴史文化セミナー
講演会「真宗史から見た市の文化財」

郷土 7日(水) 13:15～ 古文書講座55④「相良城請取と七人庄屋」

郷土 14日(水) 13:15～ 古文書講座55⑤

歴史 25日(日) 14:00～ 『貝塚市の70年』を読む会⑰
「戦後の教育制度改革」

◆ 3月

歴史 25日(日) 14:00～ 『貝塚市の70年』を読む会⑱
「貝塚市の文化活動と社会教育」

◆ 4月

歴史 22日(日) 14:00～ 『貝塚市の70年』を読む会⑲
春の記念講演会「貝塚公民館の歴史」

◆ 5月

歴史 27日(日) 14:00～ 『貝塚市の70年』を読む会⑳
「水間鉄道の沿線開発と公園整備」

※ 郷土 : 郷土資料室 歴史 : 歴史展示館

「貝塚市の
指定文化財」展
第3期

2/18(日)

3/10(土)

特別展
「岸和田藩と
貝塚」

4/22(日)

5/26(土)

「貝塚市の
指定文化財」展
第1期

貝塚市歴史展示館（ふるさと知っとこ！館）企画展 -開催中-

「変わりゆく貝塚の風景～写真で比べる今と昔～」

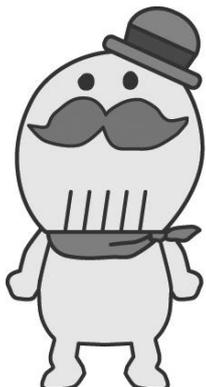
今回の展示では、概ね昭和30（1955）年前後の写真と、現在の写真とを比較しています。当時の面影のある場所、すっかり変わった場所など、60年以上の時の経過が感じられます。

会 期 平成30年4月28日（土）まで

開館時間 午前10時～午後4時

〈会期中の休館日〉

- ・ 毎火曜日
- ・ 2月11日(土・祝)
- ・ 2月12日(月・休)
- ・ 3月21日(水・祝)



貝塚市イメージ
キャラクター
つげさん

貝塚市特産品「つげ櫛」
をモチーフとしたデザ
イン。

イベントごとが大好き。
普段はのんびり、でも
祭りには萌えます。

かいつか文化財だよりテンプス64号



平成30年2月1日発行

貝塚市教育委員会

〒597-8585 貝塚市畠中1丁目17-1

Tel(072)433-7126 Fax(072)433-7053

Email: shakaikyoiku@city.kaizuka.lg.jp

※テンプスとはラテン語で「時」を意味します。

年3回発行：各1,000部